



笠原 則孝

(旧)桐生信用金庫玉村支店の跡地利用 ほかに選択肢はないのか

町 役場周辺の地区で検討した結果
適地であると判断した

Q (旧)桐生信用金庫玉村支店跡地の建物を改修し、「仮称」まちなか交流館」として活用する計画となっていて。ここが最適な場所なのか。

〈町長〉 役場周辺は、町民の生活に密着した公共施設が集中している。(旧)桐生信用金庫玉村支店は、国道354号沿いにあり、歴史的資産である赤煉瓦倉庫にも隣接しているため、一体的に活用したい。「ふれあいの居場所」「放課後児童クラブ」などの機能を充実させ、地域住民の交流やにぎわいの場として、魅力を高めたい。

また、当面は、障害者福祉作業所の建設に伴う社会福祉協議会の事務所として使用する。

Q 水辺の森周辺では、年1回フェスティバルが行われるなど、利用者も増加してきている。しかし、シヨウビン沼周辺の公園整備は不十分ではないか。



水辺の森フェスタ

〈町長〉 平成24・25年度には、沼に堆積した土砂の浚渫、ごみなど堆積物の処理をした。また、昨年度は沼に水がたまるよう工夫し、子どもたちも魚釣りに来るようになった。少しずつではあるが、シヨウビン沼の環境も改善している。今年度は、水辺の森有効活用実行委員会が実施する有効活用プロジェクトに対し、60万円の補助金を支出する予定である。

Q 2月の大雪被害に対するその後

〈町長〉 カーポートなどを対象とした見舞金は、5月末現在で785件あり、金額は1570万円。住宅の修理に対する補助金は、276件で1764万円だった。また、農業用ハウスの見舞金は110件で550万円。施設の被害件数は、調査により191名334件という結果が出ている。



石内 國雄

役場周辺地区公共施設等 高度利用計画の事業費の財源は

町 財源は、今後検討することになっている

Q 役場周辺地区公共施設等高度利用計画の財源はどのように確保するのか。また、事業を実施した8年後の財政調整基金残高と財政力指数の見込みは。

〈町長〉 本計画に要する事業費や財源については、今後検討する。

Q この計画は、推進委員会が進行管理に当たること



玉村町役場

なっている。委員会の構成及び住民や有識者の意見をどのように取り込んでいるのか。また、周辺住民への周知の状況は。

〈町長〉 推進委員会は関係課長で組織している。実施事業を具体化する際には、有識者や町民等の意見を伺い、利用しやすく喜んでもらえる施設づくりを行いたい。周辺地区への周知については、説明会・訪問等で理解をいただいた。

Q 「玉村町固定資産税等過誤納金返還金支払要綱」の見直しを行う考えがあるか。また、町ホームページへも掲載すべきではないか。

〈町長〉 期間・利率等の見直しは近隣市町の状況を確認し、必要があればその都度考える。ホームページへの要綱の掲載は検討する。



渡辺 俊彦

高崎玉村スマートIC周辺の 都市計画道路整備を急ぐべきだ

町 開発については、県と調整する

Q 高崎玉村スマートICの開通に伴い、関係地域の都市計画道路の整備を急ぐべきだ。玉村町側のIC入口と東毛広域幹線道路の交差点はT字路であるが、計画されている都市計画道路を整備し、十字路にできないか。十字路にすることで利便性は格段とよくなり、北方面や隣接する高崎市からの人の出入りが多くなるなど、関係地域をはじめ玉村町の活性化につながると考えられる。町の対応を問う。

〈町長〉 この地域に計画されている都市計画道路「滝川通り線」が整備されれば、周辺地域からのアクセスが確保され、地域の活性化に資するものと認識している。しかし、同地域はスマートIC周辺開発に向けての計画を策定中であり、どんな方法で開発できるか県と調整を行っている。この計画が進むことにより、「滝川通り線」の再検討も必要となる。

Q 学校給食材料は、現在どのように調達しているか。また、地産地消の導入に努めるべきと考え

ているか。また、地産地消の導入に努めるべきと考え

ている。佐波伊勢崎地区で収穫されるタマネギ・キュウリ等を玉村町での収穫に合わせて使用している。今後も地産地消をモットーに、児童・生徒に安心安全な給食を提供していきたい。



スマートIC入口と東毛広域幹線道路の交差点